

Aコース

10

すずき 鈴木レンガ工場跡

平和通6丁目南3



すずき 鈴木レンガ工場跡

白石の煉瓦場(明治・大正時代の呼称)のはじまりは、明治15年(1882)、駒沢小平がレンガに適する褐色の粘土を、現平和通6丁目北あたりで発見してからで、翌16年、遠藤清五郎の「遠藤煉瓦製造場」が2万個製造したと報告されている。

「鈴木煉瓦製造場」の初代 鈴木佐兵衛は東京生まれで明治15年9月渡道し、この地で明治17年7月(又は6月)工場を建設して、鉄道用レンガを製造したとの記録がある。

窯は“のぼり窯”で、燃料は付近の樹木を充てたので、土地が開け人口も増えると同時に、開拓者にとって恰好の稼ぎ場となり、レンガは白石の忘れられない産業となつた。

そのレンガは、道庁、ビール会社、五番館等赤レンガの建物や鉄橋にも使用された。

またこの工場では屋根瓦、甕や土管なども生産していた。

明治30年(1897)に、鈴木煉瓦製造場は白石村や月寒村に分工場を設立したが、大正11年、野幌に北海道炭礦鐵道株の大煉瓦場の建設やセメントの出現等で閉鎖した。



✓ 着いたらチェック

Dコース

すずき 鈴木レンガ工場跡



Bコース

本郷通・本通・平和通り巡り 4.5km



スタート・ゴール 白石あかつき公園

(地下鉄南郷13丁目駅3番出口徒歩2~3分)

11 ヒグマ騒動の地

12 白石神社

13 白石本通墓地

14 水源池通

15 長浜万蔵翁の銅像



15

16

11

ヒグマ騒動の地

本通13丁目南10 東白石まちづくりセンター前



ヒグマ騒動の地

ここは明治5年(1872)にヒグマが討ち取られ、明治29年(1896)には住民がヒグマに大けがを負わされた場所である。

原野を切り開いて始まった白石の開拓では、ヒグマによる人への危害、家畜・農作物の被害が深刻で、ヒグマが出たという情報が入ると探して殺した。

記録によると、白石ではヒグマに一方的に襲われて人が死亡したことではなく、地元農民に撃たれたヒグマが反撃して人が死亡・けがをしたことが2度ある。

明治13年(1880)には、今の平和通1丁目南付近で1人を死亡させ、明治29年(1896)には、今の水源池通で1人を死亡させて、翌日この東白石まちづくりセンター付近などで2人に大けがを負わせ、翌日仕留められている。



開拓者たちが最も恐れたのはヒグマ。人や家畜などへの被害が大きかつたため、開拓使では、捕獲奨励金を出して駆除に努めました。

明治29年には、この地域に出没したヒグマに襲われて、大けがを負う人や死亡者がいたため、村中総出で駆除したという記録が残っています。

 ✓ 着いたらチェック

12

白石神社

本通14丁目北



白石神社

明治4年(1871)に入植した旧仙台藩白石城主片倉小十郎の元家来とその家族たちは、わずか20日間で家を建て、村を完成させた。次に真っ先に望んだのが開拓の守り神として神武天皇を祭ることだった。

さっそく翌5年3月、村の最も奥の左50番地横の180坪四方の土地に神社を建てたいと開拓使に願い出た。集会を行う善俗堂や札幌へ行くことはあっても、村の端に行くことは少ないので、神社を村の端に建て、祭のときは全員で集まることにしたのだ。

「神武天皇を祭るのは認めないが札幌神社の遙拝所ならばよい」と開拓使の許可が下り、札幌神社の旧社殿を譲り受けて移設した。鎮座祭は明治5年5月15日、開拓使判官の岩村通俊から譲り受けた神武天皇陵の砂を御神体として行われた。村人はこの遙拝所を陰で「神武社」と呼んだ。

明治30年9月10日、社殿を建て直して名称を白石神社に改め、例大祭を9月11日と定めた。社殿は何度か火事で失火、現在の社殿は昭和41年に建て直したものである。



明治5年(1872)3月、円山公園に遷座した札幌神社旧社殿の払い下げを受け「札幌神社遙拝所」として建立。明治30年(1897)の社殿改築を機に名称を「白石神社」と改め、大正9年(1920)に村社として認められました。

 ✓ 着いたらチェック

13

白石本通墓地

平和通10丁目北5



白石本通墓地

白石中央墓地(現 平和通1丁目南2一帯)が、明治5年(1872)に設置されていたが、白石村の東側に居住する人びとから「近い場所に」との要望が強く、白石村では明治5年10月、開拓使に懇願した。

しかし、開拓使は「一村一カ所タルヘキ事」として却下している。

そのため、白石本通墓地の開設年は明確でないが、明治13年頃と関係書類には記録され正式に許可を受けたのは明治35年(1902)4月であった。

当時の墓石は、一般的には石山軟石(溶結凝灰岩)であったが、この墓地の特徴として、戒名・死亡年月日などを彫り込んだ粘土の素焼きに、上薬をかけて焼きあげた茶色い土管型や角柱型の墓も散見されたが、現存するのは土管型数個のみである。

隣接地にキリスト教徒の墓地が見られるが、この墓地は昭和7年(1932)日本札幌教区天主教宣教師社団が土地を購入、白石村に寄付し信者の埋葬地としたものである。


 ✓ 着いたらチェック

白石中央墓地から遠い入植地の東側に住む人々には、新たな墓地の開設が許可されなかったため、明治13年(1880)ごろ(推定)許可が無いままで開設されたもの(その後明治35年に許可)。

ここには、大正期以降に作られた珍しい土管型の焼き物の墓標があります。

14

水源池通

本通7丁目北1



水源池通

この通は豊平区の西岡水源池へ続く道である。

西岡水源池は、明治29年(1896)に月寒に独立歩兵大隊が新設され多数の兵士の飲料水の確保が必要になったために造られた人造湖である。

水源池から鹿の踏み分け道を利用して水道管を引き、明治42年(1909)に維持管理用の道路をその上に造った。これが水源池通の始まりである。大正5年(1916)の地形図では室蘭街道(今の国道36号)を越えて栄通まで延びている。また、明治6年(1873)5月にはすでに白石街道(今の国道12号)北側に、函館本線の位置を越えて道路が延びていた。

栄通と白石街道の間はかなり後まで畠地のままで、幅15m以上の道路になったのは、栄通8丁目付近で昭和36年(1961)、札幌白石郵便局付近で42年である。さらに札幌オリンピック前年の昭和46年に拡張・舗装化され、この時に白石区の部分も水源池通と命名された。


 ✓ 着いたらチェック

明治29年、月寒に新設された独立歩兵大隊のために、西岡水源池から水道管を引き、明治42年にその上に作られた維持管理用の道路が、この通りの前身です。

その後、昭和46(1971)年までに、現在の豊平区と白石区を縦断する道路として整備されました。

Aコース

Bコース

Cコース

Dコース

15

長浜万蔵翁の銅像

本郷通8丁目北



本郷商店街誕生の功労者「長浜万蔵」の銅像で、昭和40年(1965)に建立されました。

本郷商店街は、昭和31年(1956)に創設され、住宅街のないところに先に商店街が出来上がったユニークな商店街になりました。

「本郷」の由来は南郷と本通の中間であったことから名付けられました。

✓ 着いたらチェック

Cコース

菊水・菊水上町巡り 5.2km



スタート・ゴール やよい公園 (地下鉄菊水駅5番出口徒歩1分)

16 旧国鉄東札幌駅周辺の工場地帯跡

17 宇都宮牧場跡

18 有島武郎邸跡地

19 北海道庁立札幌治療院 札幌市助産所跡

20 札幌遊郭(通称:白石遊郭)跡

21 白石村1番

Aコース

Bコース

Cコース

Dコース